

編集後記

今回の『多元文化』第5号への投稿は29篇、そのうち審査を通過した22篇の論文を掲載しております。今までにもまして多くの投稿が得られたことは、研究成果発表の場としての『多元文化』の定着とも受けとれ、編集委員一同大いに喜んでおります。とてもお忙しい時期に投稿論文の綿密な査読をしていただいた先生方に心からお礼申し上げます。

さて、以前から『多元文化』編集の最たる問題の一つであり、さらには日常生活では現実化する「多文化状況」がなかなか浸透しない分野として名高いものに・・・「パソコン」があります。世界と瞬時の通信を可能とするインターネット時代になにやら逆説的ですが、いやいや、情報化と多言語化はなかなかセットでは進行しないようです。複数の言語が混在する原稿を同じアプリケーションに打ち出し、一つ一つ編集する作業をご想像下さい。編集委員の一人「Iさん」が、恐ろしいストレスに悩まされながら続けている作業です。二言語共存下での文字化けはご存じの方も多いと思いますが、ここでは「複数言語化け」について編集作業を行うわけです。

しかしそもそも、文字が「化ける」とは一体何事でしょうか。「オリジナル言語の通りに変換できませんでした」という通知もなく、こそりと別な記号に姿を変える、その下劣さもさることながら、しかも変わり方に夢がないというか芸がない。漢字・数字や Σ だの Ω だのに変わるだけでなく、たまにはあつと驚く言語にでも変わって見たらどうだ、と思うのは筆者だけでしょうか。文字化けが、ある時には「ヘブライ語文字化け」、ある時には「エジプト象形文字化け」などということになったら、恐らく文字化け発見の作業も少しは楽しい夢のあるものに・・・は必ずしもならないかもしれませんがね、Iさん（失礼しました）。

(T)